アピール（案）

本日、私たちは特定非営利活動法人　朝日訴訟の会を設立しました。

今から半世紀前、病床にあった生活保護患者・朝日茂さんは、お兄さんからのせっかくの仕送り1500円に対して、900円を国庫に納めよ、という一通の知らせに怒りを覚え、国を相手取って行政訴訟を起こしました。

この訴訟は、「人が人たるに値する生活を勝ち取る」という意味で「人間裁判」と呼ばれました。第1審で画期的な勝利をえて、その後の生活保護基準の大幅な引き上げを実現し、憲法25条を絵に描いた餅にしてはならない、と生存権意識を国民のなかに定着させ、日本の社会保障運動の原点となりました。

ところが、最近の社会保障をめぐる動きはどうでしょう。競争と格差社会のもとで、社会保障は後退に後退を重ね、朝日訴訟以前にまで引き戻すかに思われる企てさえ現れています。

こうしたとき、私たちは、あの朝日訴訟の精神に立ち返る必要があると考えました。そして、朝日訴訟の精神を引き継ぎ、若い世代に語り伝えること、これこそが、いま私たちが果たさなければならない課題だと考え、ここに特定非営利活動朝日訴訟の会を設立しました。

朝日訴訟の会は、散逸しつつある全国の貴重な資料、そして朝日茂さんが病床にありながら書きつづった約1万通の書簡などを収集、整理、保存して、多くの方に朝日茂さんの遺志を語り伝えることで憲法25条が保障した生存権を今一度、国民の手に取り戻すことができる、と考えています。

朝日訴訟から半世紀を経た今、第2の「朝日訴訟」が起こされようとしているとき、そして憲法がその根底から踏みにじられようとしているとき、私たち朝日訴訟の会が、多くの国民に希望を与える運動の契機となれば、これほど、朝日茂さんの遺志に応えることはないでしょう。今日、設立総会に参加した一人ひとりが語り部となって「朝日訴訟」を語り、一人でも多くの人に、朝日訴訟の精神を伝え、社会保障拡充の運動の輪を拡げましょう。

2006年2月11日

特定非営利活動法人朝日訴訟の会　設立総会